

一般社団法人 日本専門医機構（第5期）
2022年度 第1回（第5期1回）外部評価委員会 議事録

開催日時 2023年1月18日 18時00分～19時30分

開催場所 日本専門医機構会議室

出席者 委員長 岩本 裕

委員 當麻あづさ、山口 徹、中島 正治（WEB）

理事長 渡辺 毅（WEB）

事務局 堀部 真人 他

欠席者 委員 神津カンナ

I. 諮問事項

1. 第5期執行部について

渡辺理事長より、第5期理事会では2/3が新しい理事に入れ替り、女性理事8名の選出などジェンダーダイバーシティを意識した組織としたこと、理事会と運営委員会が毎月開かれていることが報告された。委員からは、人事構成については評価されたが、非医師の理事等の実際の議論への貢献度や今後の会議の方向性について意見が述べられた。

答申)

- ・従来から要望していた女性が多く理事に就任したことは評価する。
- ・専門医制度がどう見えるかという一般の人から視点を必ず入れて欲しい。各委員会に一般人（非医師）を入れて欲しい。
- ・女性理事が増えたのは評価する。議論において医師だけでは気づかない部分があると思う。医師と一般人の常識が異なるため、委員会にも一般の目、患者の目を入れて欲しい。
- ・非医師の理事等の意見が会議の中でどれだけ有効であるか（取り入れられているか）チェックすることが必要だ。
- ・一般人が専門家の揃っているところで意見をするのは難しい。それぞれの意見を引き出したり吸い上げたりすることができるような会議運営をしてほしい。

2. 令和5（2023）年度事業計画および収支予算について

【事業計画について】

渡辺理事長より、令和5（2023）年度事業計画について各委員会の活動の説明がなされた。

答申)

- ・機構が認定する専門医（主にサブスペシャリティ専門医は）どこまで広げて、どこまで検討しているのか、機構の将来像も含めてよく考えていく必要があるのではないか。
- ・やるべき事業が沢山あるが頑張っていて欲しい。
- ・サブスペシャリティの広告表示は、将来、医師の収入に直結する可能性があるし、患者にも簡便性があり重要なものとする。当委員会にも検討の進捗状況を教えて欲しい。
- ・総合診療医については長期間議論され続けているが、機構の目玉事業の1つであり一般国民には重要なので、優先して検討を進めてほしい。

- ・機構の「専門医」がまだまだ世の中に浸透していない。SNS を活用した広報も良いが、年齢によって有効なメディアやアプローチが異なるので、そこも考慮し作戦を練って欲しい。
- ・マッチング制度の導入は良いと思う。積極的に検討を進めてほしい。
- ・これだけの委員会やWGがあるという事、専門医制度を確立するためにこれだけの議論がなされているという事を多くの人に知ってもらうのが重要である。

【収支予算について】

事務局より令和5年度収支予算書案について収入・支出部門に分けて説明がなされ、委員より、収入に関しては前年度と比較して予算値の差が大きいことが指摘された。それに対してプログラム認定料に関しては5年毎の更新のためであること、専門医認定料に関しては機構専門医にまだ移行していない学会専門医が移行していくための過渡期であること、またeラーニングについては前年の実績からの予算である旨の説明がなされ納得を得たが、総評としては財政については安定するまではまだわかりそうであるとの評価がなされた。また、事務局からは社員からの借入金を本年度返済予定であること、これとは別に学会への一次審査に対する未払いの手数料があり財務が安定した後にこれを支払う予定があることが補足された。

答申)

- ・e-Learning はもっと専門医や専攻医にPRなどして、収入をあげる努力が必要ではないか。
- ・サブスペシャリティ領域の審査・認定料収入が無いのは、財政に影響が大きいのではないか。
- ・無駄な費用はなく、苦しくない訳ではない。機構の財政健全化については、安定した収入基盤ができるまではまだわかりそうである。

3. 役員報酬について

岩本委員長より、役員報酬の検討状況の確認がなされ、事務局より総務委員会で検討を始めたことが報告された。また、渡辺理事長から組織のあり方に関連して財務の妥当性について長期的なビジョンを持つべき時期にきたと考えている旨の発言があった。

答申)

- ・以前から正当な報酬はお支払いすべきと意見を差上げたことであり、進捗があったことは嬉しい。引き続き状況を教えてほしい。
- ・(財務を含めて)組織としての方向性をしっかりと決め、理事長がリーダーシップをとって進めて欲しい。

4. その他

- ・是々非々を旨としながら一般の目からどう見えるかという指摘や、外からでないとならないような提案を積極的に行っていきたい。
- ・外部評価委員会の開催回数を年2回としているが、必要があればそれに限らず開催する。また、理事長には積極的に諮問をして欲しい。